

牧草（一番草）の収穫作業が始まりました！

独立行政法人家畜改良センター岩手牧場（場長 大井 真紀子）は、牧草を刈り取れる時期となったため、5月15日から一番草の収穫作業を開始しました。

岩手牧場は、家畜改良センターの牧場として乳用牛の育種改良事業を行っており、飼養する約800頭の乳用牛に給与する粗飼料を作っています。場内の約420haのほ場には、牧草や飼料用トウモロコシを栽培し、乾草やサイレージとして、年間約8,000トンの粗飼料を生産・利用しています。特に、牧草刈り取りの初日を「鎌入れ」と呼び、1年の収穫作業の安全と豊作を祈念する日となっています。

青空の中、山々を背景に牧草の収穫を行う風景は、酪農主産地である岩手県を代表するとても美しい風景です。鎌入れ後は、秋まで収穫作業が続きます。



* 天候により収穫を行わない日もあります。取材を希望される場合は、家畜防疫の関係上、留意事項等を説明する必要がありますので、事前に下記担当者へご連絡くださいますようお願い申し上げます。

お問い合わせ先

独立行政法人家畜改良センター岩手牧場

担当者：こだま 兒玉、うえぞの 上園、あつじ 阿閉

電話：019-641-2130

FAX：019-641-4725

URL：<https://www.nlbc.go.jp/iwate/index.html>